

2025

結成60周年記念誌



「風の谷」木版画 半切 佐々木 孝

横浜市退職小学校長会

ともに生き、ともに絆を深める横浜市退職小学校長会

目 次

1 挨拶	結成 60 周年記念事業実行委員長 加納 多嘉美	2
2 祝辞	横浜市教育委員会 教育長 下田 康晴	3
	横浜市立小学校長会 会長 大塩 啓介	3
3 未来を見据えた 10年間（平成 27 年度～令和 6 年度）の取組		4
(1) 退職小学校長会の会計・組織の見直し		4
(2) 教育サポート事業の取組（組織を活かした学校支援）		6
(3) デジタル化（ホームページ作成）の取組		8
4 絆を深める取組（他の教育団体との連携）		10
○横浜市教育委員会		
○横浜市連合退職校長会		
○神奈川県連合退職校長会		
5 横浜市退職小学校長会10年間のあゆみと世の中の動き		11
6 事業部・同好会・地区活動の10年間の取組		12
(1) 事業部・同好会の取組		12
① 情宣事業部		12
② 親睦事業部・同好会		14
(2) 地区活動の取組		19
(3) 親睦事業部の活動成果紹介（ホームページへのお誘い）		21
7 資料（歴代役員・幹事等名簿（平成 27 年度～令和 6 年度））		22
(1) 歴代役員・参与・総務・会計の名簿		22
(2) 地区幹事名簿		23
(3) 事業部幹事名簿		24
8 あとがきにかえて		26

表紙デザイン：樺永卓三（あかね展）



「彼方を見つめて」 大高美代子（フォトさくら）



挨拶

結成60周年記念事業実行委員長
加納 多嘉美

横浜市退職小学校長会は、本年結成60周年を迎えました。会員の皆様及び関係諸団体の方々と共に喜び、お祝いしたいと存じます。

60周年は人に例えれば還暦。0歳に戻り、生き直すという意義が込められております。昭和38年から39年にかけ「無名会」という味な名の仲間10数名が市立小学校の退職校長に「つなぎ合う会を」と呼びかけたのが始まりでした。そのおかげで昭和40年5月29日に本会は結成されたのです。「無名会」の先輩たちは創り上げる喜びと誇らしさを充分に感じ合ったことと拝察させて頂きます。

令和6年度役員会19名も60周年の節目に出会い、記念事業を推進する苦労と楽しさを体験し合いました。「調整部会」「祝賀部会」「記念誌部会」「会計部会」として検討し合い、記念事業を創り上げる逞しさと謙虚さを身に付けることができました。

歴代先輩たちから続く10年ごとの振り返りが、「もう一度生まれ変わる」力の源となり、横浜市退職小学校長会の発展につながることを実感させて頂きました。

50周年からの10年間は、教育界の変動、コロナ禍による社会危機が続きました。平成25年以降急増する児童生徒の孤独な暴力行為、令和2年から4年にかけてのコロナ禍による社会や人間関係の分断、令和5年65歳定年制延長実施による特例任用試験、暫定任用試験の矛盾等、連続テレビ小説のように「はて?」と首をひねる方も多かったのではないでしょうか。ただし時代が大きく変わろうとも、横浜市退職小学校長会の根底を流れる「つなぎ合い絆を深める」想いは不動です。豊かな知識と経験を活かし、社会貢献される多くの会員の方々のご活躍に刺激を頂く毎日です。

結成60周年を迎え、これを契機として本会が益々発展していきますよう願っております。

最後に、60周年記念事業実施に当たり、全地域の会員の皆様のご協力を頂きました。誠に有難うございました。心より御礼申し上げます。

URLとQRコードについて

結成60周年記念誌は、50周年記念誌（平成26年度作成）後、平成27年度から令和6年度までの10年間の本会のあゆみと記録を残していくというコンセプトで編集しています。

ページが限られているために、本会の足跡の一部が記述されています。編集部員が記事をまとめていく中で、令和3年8月に立ち上げたホームページとの関連を模索しました。より詳細な情報（具体的な活動と写真等）をお届けするようにしたかったからです。

本会のホームページには、本部の活動、情宣・親睦事業部の活動、地区活動の記事などが配信されています。

本会のホームページのサイトは、次のURLまたは、QRコードからご覧いただけます。

<https://yokohama-tsk.jp/>



「香り漂いて」中島 博（フォトさくら）



祝　辞

横浜市教育委員会

教育長 下田 康晴

横浜市退職小学校長会結成 60 周年という節目を迎え、心よりお祝い申し上げます。長年にわたり横浜市の教育に多大な貢献をされてこられた皆様に対し、深い感謝と敬意を表します。

現在、横浜市は「横浜教育ビジョン 2030」の具現化に向けたアクションプランとして、「第4期横浜市教育振興基本計画」を令和5年2月に策定し、「一人ひとりを大切に」「みんなの計画・みんなで実現」「EBPMの実現」を視点とした、8つの柱を立てた取組を具現化しております。この取組により「横浜の教育が目指す人づくり」である「自ら学び 社会とつながり 共に未来を創る人」の育成を目指していきます。これらは、これまで皆様が築いてこられた教育の礎の上に、未来を担う子どもたちの成長する場が提供され続けていると同時に、皆様が教育現場で培われた経験や知恵、そして情熱をさらに御支援や御助言をいただくことで、実効性を高めることができると確信しております。引き続き御支援と御協力を賜りたくお願い申し上げます。

結びに、60年という長きにわたる歩みは、皆様一人ひとりの教育に対する真摯な取り組みの賜物です。あらためて、横浜市退職小学校長会 60 周年を祝し、さらなる発展と皆様の御健勝を心より祈念申し上げまして、お祝いの言葉とさせていただきます。



横浜市退職小学校長会結成 60 周年に寄せて

横浜市立小学校長会

会長 大塩 啓介

この度は横浜市退職小学校長会が 60 周年を迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げます。

貴会におかれましては、退職後の校長の豊かな人生を支えるべく、人と人のつながりを大切にされてまいりました。様々な文化活動や催しが企画運営され、それを生きがいにされている皆様も多いのではないでしょうか。また、のみならず、横浜市の教育の向上のため、貴会の様々な組織を通して学校現場にご示唆を頂戴したり、学校のボランティアとしてご活動下さったりと、学校現場を献身的に支えて頂いています。心より感謝申し上げます。

現在の学校現場を取り巻いている状況ですが、既にご存じの通りコロナ禍を経て教育DXが進み、次々と新しい施策が入ってきます。これにより、児童の学び方が大きく変わり、私たち教員の指導観、評価観も大きく変わってきています。また、教員採用試験の受験者の減少や、ブラックと世間から揶揄される現場の状況は、学校現場の変革を待った無しに迫られ、働き方改革の名のもと、教育DXと相まって現場の仕方も大きく変わってきています。そして、不登校児童や個別支援級の児童の増加、いじめへの対応など、児童の学習活動以外のところでこれからも大きな課題として残り続けていきます。

このような中、退職小学校長会におかれましては、これから横浜の教育を担っていく横浜市立小学校の校長・教職員に対し、学校運営上の貴重な御示唆を頂けることを願っています。また、今後とも、学校現場への支援活動も引き続きお願いできればと存じます。私たち小学校長会は、貴会と共に横浜市の教育の更なる推進のため、手を携えて活動してまいります。

横浜市退職小学校長会の更なる発展を祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。

未来を見据えた10年間（平成27年度～令和6年度）の取組

（1）退職小学校長会の会計・組織の見直し

結成以来、事業部並びに地区活動が果たしてきた功績は大きいものがあります。携わってこられた役員・幹事の皆様のご努力は並々ならぬものがあったと思います。本会結成50年を過ぎた今、さらなる未来の発展に向けて、様々なご意見やご感想を基に一般会計・特別会計さらに事業部活動並びに地区活動も含めて、組織活動全体を見直していくことにいたしました。

①組織の見直し

ア 会計（一般・特別）並びに組織の在り方検討委員会を立ち上げました。

平成29年7月、齋藤隆士（会長）、山本 明（委員長）、岡庭仁子（副会長）、吉野宏野（監査）

堀井佳一（監査） 有馬禮治、坂上正忠、高田俊道、加藤 誠、福田三郎、横濱佳子、小笠原陽子（会計）

加納多嘉美（会計） 中村恵司（会計） 伊藤康男（総務）の15名により検討を始めました。

イ 一般会計・特別会計における改善内容（平成30年4月24日、規約・細則の一部改正）

○会費の値上げはしません。

○運営基金の積み立ては据え置きとし、今後積み立ては行わないことにします。

○周年行事の積み立ては年度の繰り越しに応じて積み立てていきます。

○事業部・地区活動の在り方は引き続き検討課題とします。

一般会計における改善内容	特別会計における改善内容
(ア) 会員名簿の発行を3年おきとします。	(ア) 米寿・喜寿の方々への祝意は、会報や総会にて公表します。
(イ) 「敬老特別乗車証」の活用を図り、これを利用してきました場合は一律200円の交通費を支給します。	(イ) お祝いの記念品は米寿の方のみとしてお祝い金5,000円相当を贈ります。
(ウ) 葉書での幹事会開催通知出さない。「年間行事予定表」に記載された通り実施します。	(ウ)弔事に関しては、生花を廃止し、弔慰金として10,000円を贈ります。
(エ) 会員数の増加を図る。退職校長、再任用校長の勧誘活動を今迄通り行います。	(エ) 慶弔費は当分500円とし、出費超過が予想される場合は、役員会にて臨時徴収します。

ウ 事業部活動・地区活動の見直し（令和2年5月28日細則の一部改正）

○事業部を2つに分けます。

・情宣・サポート事業部として、会報・教育サポートセンター

・親睦事業部として見学会・はぜ釣り・俳句・あかね展・囲碁研修・旅行研修・フォトさくら・読書と文学散歩の会

事業部の見直し	地区の見直し
(ア) 見学会と市内施設巡りを「見学会」に。	(ア) 西区、中区を「西・中」地区に。
(イ) 一泊研修、海外研修を「旅行研修」に変更する。	(イ) 「藤沢・茅ヶ崎・平塚以西」を「藤沢以西」とし、100名を越える地区は幹事を増員する。
(ウ) 継続が難しい事業部は改変を進める。	

②定年制延長に伴う会員数減少と高齢化する会の運営の在り方検討部会を立ち上げました。

公務員の定年年齢を段階的に引き上げる法律が成立したのを受け、今後、2年ごとに退職年齢が1年ずつ引き上げられていきます。2033年には、65歳が退職年齢となります。そこで、本会として、高齢化と会員数減少に対応できる生きがいとやりがいのある退職小学校長会にしていくための課題を考えることにしました。

③今後を見据えた組織の在り方検討部会を役員会内に立ち上げました。

令和4年度、大久保重則会長はじめ役員、総務、会計の役員会メンバーを4つの部会に分け、検討を進めてきました。

2年かけての検討等内容をまとめ令和6年5月11日の総会においてご承認をいただき、今後の方向性に位置付けられました。

部会名	決定事項
入会促進部会	<ul style="list-style-type: none"> ・新任校長へ祝意を伝え、本会との連携を深めます。 ・入会促進パンフレットを作成します。 ・HP ブログ等を活用し、教育サポートセンターの充実を図ります。 ・校長会との情報交換研修会。対面、文書での入会促進を図ります。
地区活性化部会	<ul style="list-style-type: none"> ・地区集会の拡大を図ります。 ・地区活動費を見直し、地区幹事一人当たり2,000円ずつ支払います。 ・地区集会通信補助費は、地区集会に関わる諸経費を実費で支給します。 ・但し領収書を提出します。
事業部活性化部会	<ul style="list-style-type: none"> ・同好会活動の発足を認めます。 ・事業活動費を事業活動補助費と名称を変え、親睦事業部の活動補助費をそれぞれ5,000円減額します。 ・活動補助費は、予算見込み及び報告を研修計画、報告書に記載します。
会費検討部会	<ul style="list-style-type: none"> ・会費の徴集を確実に行います。 ・未納者対応を推し進めます。

④今後の課題に向けて

今後、会の組織力を高め、地区・事業部、同好会の活動を高めたりするためには、地区の組織力を生かすことが求められると思います。地区集会等、身近なところでの活動を通して、本会の多様な活動をより多くの会員に伝えていくことが求められると思います。

（2）教育サポート事業の取組（組織を活かした学校支援）

平成 20 年度、60 名の協力会員を得て、「教育ボランティア活動」が位置付けられました。

それから 10 年が経過し、学校は教育内容や学習活動の多様さと児童生徒に関わる生活や行動に関わる諸問題が山積する中、ますます教育ボランティアの果たす役割は大きくなっています。

①「教育ボランティア活動」を見直す検討会議の開催

平成 30 年 6 月、齋藤隆士会長、大久保重則委員長、加納多嘉美、森 徹、大澤眞治郎、浜本美一、伊藤康男の検討メンバーによって、計 11 回に及ぶ検討委員会が開催されました。

○横浜市教育委員会指導企画課長様から横浜教育支援隊の活動状況をお聞きしたり、小学校長会長様から現場の要望をお聞きしたりすると共に横浜スパイス代表様からも本会の果たす役割をお聞きし、情報を収集しました。

○ボランティア活動に携わる会員の実態調査並びに学校支援活動に対する意識調査を実施し、現状を把握するとともに今後の協力体制への意識の向上を図ることにしました。

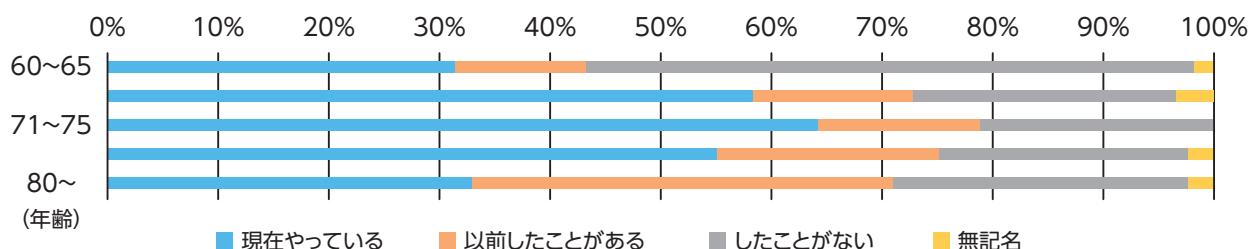
○新たな教育環境の変化に対応した学校支援活動のあり方を考えました。

②会員向けに実施したボランティア活動並びに学校支援活動調査を実施

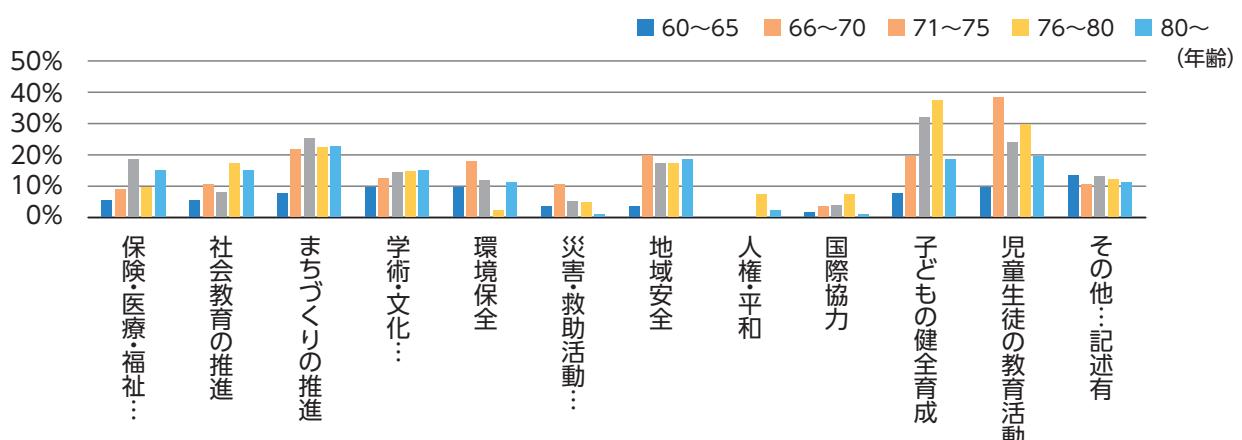
令和元年 5 月、検討委員会は、全会員に向けてボランティア活動についての実態調査を実施、その結果、会員の多くの方がボランティア活動に関わられていて、ボランティア活動への意識の高さが分かりました。また、その活動内容も多岐にわたっていることも確認できました。

さらに、学校支援したい方々の希望内容が把握でき、支援内容に応じた依頼の判断資料として活用することができました。

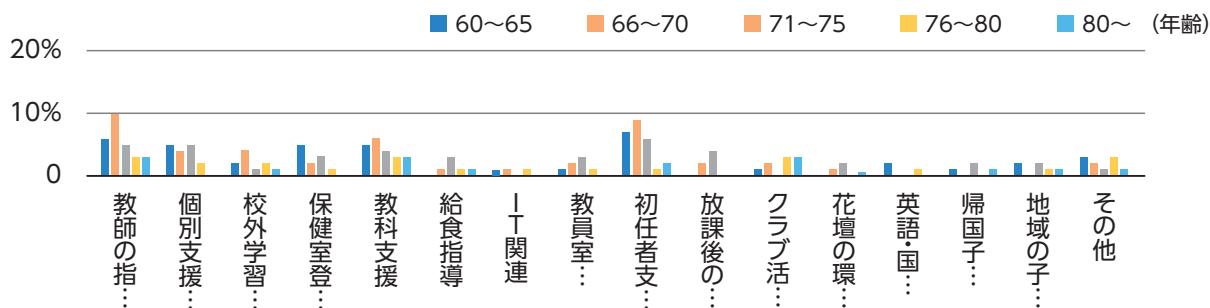
ボランティア経験の有無（全体）



ボランティア活動内容（全体）



登録した方が希望している支援内容



③教育サポートセンター設置の意義

今、学校では、多くの学校支援を求めています。そこで、本会の目的に照らし、学校支援登録者並びに会員と学校との関係をつなぐ調整的な役割を担うべく教育サポートセンターを立ち上げ、組織を生かし、継続的な社会貢献を推進していきます。

④教育サポートセンターの活動内容

- ア 学校支援登録者名簿の管理をします。
- イ 横浜市教育委員会や学校並びに他団体からの要請を受け、可能な学校支援登録者に協力を依頼します。
- ウ 横浜市教育委員会と連携し、学校支援されている会員の活動実態を共有します。
- エ 会員宛に学校支援情報を提供し、登録者拡大への依頼を行います。
- オ 登録者間との情報交換を行います。
- カ 登録者との相談に応じます。
- キ 課題をまとめ会長へ提言します。

⑤新事業部の設立

「教育サポートセンター」
平成31年4月23日設立
同年規約・細則の一部を改正しました。



⑥発足時の現状

令和元年発足した教育サポートセンターは、登録者53名と共に活動をスタートしました。初年度は、半年で、学校から34のオファーがありました。臨任や非常勤の依頼も多く成立率は約60%でした。上の『希望している活動』のグラフからも分かるように、活動希望の多い授業補助や教諭支援、児童支援、校外学習付添いで成立しています。成立条件としては近隣校・短時間・短期間が多く、学校からのオファー内容を校長と調整した結果成立するケースも増えてきました。

センター長 北村 克久
情報担当 (小池慎一)
学校連絡窓口
東部 伊藤 康男
西部 田中 綾子
南部 高橋 定雄
北部 大谷多恵子
(林 弘之)

（3）デジタル化（ホームページ作成）の取組

★本会のホームページができるまでのヒ・ミ・ツ

次のような社会的・時代的背景を受け、役員会でホームページの作成についての検討を重ね、「ホームページ作成プロジェクト委員会」を令和2年10月に立ち上げ、令和3年度内の開設に向けた動きを開始しました。

- インターネット利用環境の充実やスマートフォンなどの情報端末の普及により、誰もが、いつでもどこでも、自由に情報を手に入れることができるようになったこと
 - コロナ禍で、情報の受発信手段の多様化を図る必要性を実感したことこの検討の中で、本会のホームページ開設の目的を、次のように考えました。
 - 本部等からの会員への情報を、より緊密に届けること
 - 本会の理念、本会の活動内容の紹介、生涯学習に取組む会員のメッセージを伝えること
 - 会員相互の交流のきっかけとなる場の提供
 - 現職の校長先生にもホームページを通して知ってもらうこと
- こうした考えのもとに、令和3年8月に、本会のホームページが始動しました。



<https://yokohama-tsk.jp/>
ホームページのURL

★ホームページ作成プロジェクト委員会のメンバー（役職名は、令和2年当時のものです。）

小池 憲一 委員長、鷺山 龍太郎 副委員長、手代森 茂 委員
小坂 映夫 会長、加納 多嘉美 副会長、吉野 誠 総務（事務局）、小松 規久夫 総務（事務局）

横浜市退職小学校長会

ブログ 事業部について 教育サポートセンター 会報誌 本部掲示板

A wide-angle photograph of the Yokohama skyline across the water, featuring the Minato Mirai 21 area with its distinctive buildings and the Mount Fuji in the background.

活動理念

『ともに生き、ともに絆を深める退職小学校長会』

私たちは、横浜市退職小学校長会の設立以来の歴史や活動を継承し、横浜の教育の将来を見つめつつ会員としての自覚と誇りをもって、ここに活動理念を定めます。

- 学校教育尊重の機運を高め、横浜市の教育の振興に寄与します。
- 生命尊重の理念のもとに生涯学び続け、充実した生き方を実現します。
- 会員の親睦を図り、会員相互の絆を深めます。
- 地域の教育の振興、文化の向上への良好な環境の形成に力を尽くします。
- 関係機関・団体と連携・協力して、活動の発展を図ります。

令和3年5月制定

（本会ホームページの表紙：トップページ）

★ホームページの表紙（トップページ）写真のヒ・ミ・ツ

本会のホームページのトップページの写真には、横浜港を海側から見た写真が使われています。

撮影地は、ベイブリッジのスカイウォーク、撮影者は、ホームページ作成プロジェクト委員会の副委員長の鷺山龍太郎氏です。

ホームページを作成する際、トップページの写真をどうするか話し合っていた時、鷺山副委員長が、この写真を提示してくれました。

横浜ランドマークタワーが画面の中央に配された写真です。

委員一同、即決でこの写真に決めました。

その理由は、もちろん、「横浜」を象徴するような写真であることと共に、本会のホームページが、会員にとっての『ランドマークになるように』、『ランドマークであり続けたい』そうした想いや願いを、その時出席していたプロジェクト委員全員が共有したからです。

★ブログ形式を取り入れたヒ・ミ・ツ

ホームページは、常に“新鮮な”情報に溢れている必要があります。

誰か一人がホームページの更新作業を行うというような運営をすると、特定の人への負荷が増え、またその人がいなくなった時に、更新が止まってしまうということになりかねません。

そこで、本会の3つの情宣事業部・8つの親睦事業部・本部・地区で自主的にホームページの更新ができるような仕組みとするために、ブログ形式を採用しました。（最終決定業者の提案の中に、「ブログ」の提案があったのです。）

ブログ形式を中心としたホームページの管理運用を行ってきた結果、毎月10件近くの新規記事が更新され続けています。

ブログ形式を採用することで、このホームページが、視聴者参加型となり、その結果、「みんなで」作り、「みんなで」楽しむホームページになっています。

★ブログの更新にあたってのヒ・ミ・ツ

ホームページ管理事業部（HP管理事業部）には、本会の各組織のホームページ担当者がメンバーとして所属し、それぞれの事業部等のブログの更新を進めています。

メンバーは、ホームページについて、全くのシロウトなので、HP管理事業部の定例会の際に、個人情報の扱いや著作権、具体的な更新操作手順などについて研修を深めたり、メーリングリストで情報交換を行ったりして、より良いホームページとなるよう心がけています。

★ホームページがあるのに、メールマガジンを発行しているヒ・ミ・ツ

ホームページは、「見に行」かなければ、情報を得ることはできません。

でも、いくら大好きな「横浜市退職小学校長会」のホームページでも、毎日のように「見に行く」のは、少々億劫に感じると思います。

そこで、ホームページでの情報発信と並行して、「メールマガジン」を発行することにしました。

配信頻度は、概ね1か月に1回で、「月刊誌」のような間隔（感覚）です。

「メールマガジン」を購読するには、自分のメールアドレスを、一度登録しておけば、その後は、自動的にメールマガジンが届きます。

そのメールマガジンには、役員会の報告や、ブログの更新情報、会員の声・写真などが掲載されていますから、メールマガジンの着信をきっかけに、ホームページでより詳しい情報を得ることができます。

メールマガジンは、ちょうど、「目覚まし時計」のような役割です。

ホームページとメールマガジンは、車の両輪のようなもので、相互に補いあうツールなのです。



メールマガジン購読
申し込み用QRコード

糸を深める取組（他の教育団体との連携）

横浜市教育委員会

年間を通し、本会と横浜市教育委員会は様々な会合、行事等での情報交換を実施している。

- 会員歓迎関係の調査申請や紹介についての連携
- 教育サポート等の要望・提案、情報交換、交流会実施
- 横浜市の「市ポスト」使用援助
- 横浜市の教育基本施策の紹介や案内
- 教育問題研究協議会の後援、講師、指導助言派遣
- 総会、教育問題研究協議会等での来賓招聘

そのため年度当初の役員訪問挨拶から連携を深めている。

横浜市連合退職校長会

横浜市連合退職校長会は市立学校4種（小・中・高・特別支援）の退職校長会員で構成され、横浜市の教育振興等への寄与を目的にした全国でも注目される教育団体である。毎年、「教育問題研究協議会」「教育講演会」を企画運営、開催し、会員・現職校長・幼保・PTA等広く参加し、交流を深めている。横浜市退職小学校長会からは役員1名、常任理事7名、理事8名が事業運営に参加し、会長・事務局は、小・中役員が2年間、輪番で担当している。



令和6年度
教育講演会案内ちらし



令和6年度
教問題研究協議会案内ちらし



令和6年度
教育問題研究協議会の様子

神奈川県連合退職校長会

現在、学校現場を取り巻く環境は、非常に厳しい状況が続いている。全国連合退職校長会は、我が国の未来を左右しかねない危機的な状況を開拓するために関係省庁に対して提言や要望書を継続して提出している。神奈川県連合退職校長会は、全国の退職校長会と連携し、共に協力して要望活動を行っている。

横浜市退職小学校長会は、神奈川県下15地区の退職校長会と共に連携し、未来を見据えながら事業活動を進めている。

横浜市退職小学校長会からは、役員1名、常任理事7名・理事2名が事業運営に参加している。各地区の教育問題研究協議会・講演会等、他の教育機関や団体と共に開催している。



関ブロ・千葉大会の様子

横浜市退職小学校長会 10 年間のあゆみと世の中の動き

10 年間のあゆみ	年	世の中の動き
結成 50 周年記念式典・祝賀会を開催する	平成 27 年度 (2015 年度)	
「フォトさくら」「読書と文学散歩の会」を新事業部として承認する	平成 28 年度 (2016 年度)	熊本地震 リオオリンピック・パラリンピック
「会計検討委員会」を設置し、一般会計、特別会計の見直しを図る	平成 29 年度 (2017 年度)	平昌冬季オリンピック・パラリンピック開催
「教育ボランティア」活動検討委員会を設置する 「会員名簿」の発行を「3 年おきに発行」とする 但し、名簿の変更内容及び区ごとの連絡網は、今まで通り、毎年、文書にて送る 慶弔規定を一部変更する。弔慰金は 1 万円、記念品は米寿の方に 5 千円を贈る	平成 30 年度 (2018 年度)	
「教育サポートセンター」を新事業部として承認する 「事業部並びに地区組織の見直しに向けての取り組み」検討委員会を設置する	令和元年度 (2019 年度)	天皇陛下ご即位 消費税 10% に引き上げ
新型コロナウイルス感染症の拡大により「緊急事態宣言」が発令され、ほとんど全ての事業活動を中止する 「HP 作成プロジェクト委員会」を設置する	令和 2 年度 (2020 年度)	新型コロナ感染拡大により緊急事態宣言
新型コロナウイルス感染症の流行が緩和されたため、いくつかの活動・事業を再開する 【実施した活動】 ・幹事会 ・研修会 ・各事業部 (11 事業部のうち 8 事業部で実施) 「今後を見据えた組織の在り方検討会」を設置する 事業部を「情宣・サポート事業部」「親睦事業部」に分ける 「HP 管理事業部」を新事業部として承認する 横浜市退職小学校長会のホームページが開設される	令和 3 年度 (2021 年度)	東京オリンピック・パラリンピック無観客で開催 北京冬季オリンピック・パラリンピック開催
「今後を見据えた組織の在り方検討」を継続して進める	令和 4 年度 (2022 年度)	日本が WBC 優勝
今後を見据えた組織の在り方」を継続して進め、入会促進、地区活動、事業部活動、会計執行の在り方を見直す	令和 5 年度 (2023 年度)	新型コロナ 5 類移行 能登半島地震
「60 周年記念事業準備委員会」を設置する	令和 6 年度 (2024 年度)	新紙幣発行 パリオリンピック・パラリンピック開催
総会後、結成 60 周年記念祝賀会を開催する	令和 7 年度 (2025 年度)	

※詳しくは本部掲示板に掲載予定ですのであわせてご覧ください

事業部・同好会・地区活動の10年間の取組

（1）事業部・同好会の取組

事業部は、「会員相互の親睦をはかる」「学校教育への支援の充実」という本会の目的を具現化し続けるために、工夫と努力をしてきた。また、新たな発想や会員諸氏のニーズにより同好会が発足し事業部への昇格を目指して活動を充実させている。活動のバリエーションも趣味趣向の充実を図るもの、新たな出会いから楽しい活動を通して退職後の人生を豊かにするもの、健闘する教育現場への支援策を考えて支援システムを構築し、仲間と協働して学校教育にかかわり続けるもの、仲間と楽しみながら健康づくりに励むもの等多岐にわたる。これから的人生を生きがいをもって豊かなものにしている活動を各事業部・同好会に振り返っていただいた。



①情宣事業部

「会報部」～組織と会員、会員と会員の架け橋として～



会長をはじめとして、大勢の会員等の方々に原稿を書いていただいた。



☆継続的な発行☆

☆ゆたかな情報☆

☆エピソード☆

コロナ禍に1回だけ休刊。デジタル時代に紙面発行を続ける。

地区だより、ボランティアも掲載を開始。多種多様な情報を載せている。

若いときの登山仲間の名前を「会員だより」で見つけ、再び一緒に山歩きを楽しめてうれしかった、など喜びの声が届いている。

(部長 岩田 悟)

①情宣事業部

「教育サポートセンター」～学校現場を支える～

平成30年9月、役員と共に「教育ボランティア活動推進について」という話し合いがもたれた。退職校長会として「教育ボランティア」の活動を組織的・継続的に推進していきたいという提案を受けて、サポート部会は動き出した。令和元年6月、メルアド&HP作成の上でサポートセンターが出発した。徐々に学校現場からの要請があり、欠員のため「臨任・非常勤」がほしい！という声が聞こえてきた。

方面別幹事は、ボランティア名簿をもとに連絡するが、学校現場の要請に応えきれない状況が続く。



解決策を探るため、令和5年8月「夢の情報交換会」を開催した。様々な支援をされている方と話ができる、刺激になったなど、有意義な会となった。しかし、5人の幹事だけでは、欠員の課題は解決されない。

また、登録者名簿だけでは、学校の期待に添うこともできないのが現状である。今後は、今回の組織を生かし、地区幹事の協力を得る方向で検討していきたい。

(部長 北村 克久)



「HP 管理事業部」～横浜市退職小学校長会ホームページの始動～

令和元年 8月～令和2年3月 計7回の役員会を経てホームページ作成を決定

令和2年10月 ホームページ作成プロジェクト委員会 第1回会合を招集

令和2年11月 ホームページ作成の目的とその内容について概要の検討

令和2年12月 ホームページ概要の確定と作成業者候補の選定

令和2年 1月 作成代行業者5社への説明と見積り依頼

令和3年 2月 見積内容（提案内容）の検討と、業者決定

令和3年 3月 プロジェクト委員会で業者への依頼事項の確認

令和3年 4月 幹事会・総会での承認を経て、業者に正式発注

令和3年 7月 本会ホームページの初版が完成し、最終チェックと試験運用

令和3年 8月 本会ホームページの正式運用開始（始動！：HP 管理事業部の発足）

令和3年10月 本会メールマガジン創刊号を発行 これまでに約50号発行

令和7年 4月までの4年間の実績 ブログ記事 約500件



(部長 小池 慎一)

②親睦事業部・同好会

「見学会」～史跡や施設を巡る～

30年ほど前、鎌倉方面と市内方面と別々に会がスタートした。令和の頃から『神奈川の史跡再発見』と題し、歴史史跡巡りと月2回ホームページ上のブログ更新をしている。令和2（2020）年、鎌倉と横浜方面の史跡・施設巡りを合同とした折、COVID-19の蔓延により一年間の止む無く中止を挟んで、次のような歩みをしている。令和3年；腰越へ（17名、日蓮聖人の龍ノ口法難の地及び腰越状で有名な満福寺）。1年越しの計画が実現。4年；横浜神奈川宿へ（18名、防災センターで防災体験と施設見学及び生麦事件に関わる本覚寺など）。オプションで龍馬の妻おりょうも働いた「田中屋での会食」を満喫。5年から、年2回の見学会に、1回目；



名越へ（21名、政子に縁ある安養院及び日蓮聖人が草庵を結んだ妙法寺や法窟のある安國論寺）。抹茶を味わい歓談の時を楽しむ。2回目；関内方面へ（18名、開港に伴う消防・下水道施設及びペリー上陸地に立つ）。県庁から象の鼻探訪。「いつもは通り過ぎていた、再発見!!」と会員の声。6年1回目：山下町方面（19名、震災遺構から大震災の爪痕を想起及び氷川丸船内見学など）へ。



（部長 慶徳 正好）

「はぜ釣り」～秋の風物詩～

横浜市退職小学校長会の「はぜ釣りの会」は、発足当初から、レクレーションの一つとして実施されたようである。ここ十数年は、年に1回、九月中心に計画されてきたが、近頃の夏の猛暑で残暑も厳しくなり、熱中症への対処で、少し遅くし十月の開催としている。



また、例年、会場（釣り場）を金沢区にある野島公園の海岸として実施しているが、近年、ハゼの釣果が減少傾向にあることや、もっと駅に近い場所はないかなど、会場の変更も検討してみた。しかしながら、ここ野島公園は、大きな波もなく安全に安心して釣りができる。しかも、海のそばなので地震の時に津波の心配もあるが、近くに高台もあり、避難場所とすることができる。また、ここには砂地がありアサリもいるので、釣りだけでなく潮干狩りも楽しむことができ、これ以上の場所を見つけだせないでいる。



「はぜ釣りの会」は、発足以来、多くの幹事の方にご尽力いただき、発展してきた。今後、多くの会員の方々に参加していただくことを願っている。

（部長 藤崎 直樹）

②親睦事業部・同好会

「俳句部会 花水木」～脳も心も生き生きと～

2015年、退職校長会結成50周年記念句集Ⅱ発行。2018年草創期からの部員の変動による俳句部新体制の運営となる。六本木彌太郎氏顧問に。席会場は東小から桜木町ぴおシティーへ。俳壇花水木81号より編集・印刷は部員で担当年4回2年間発行。82号からは欠席者の選句も郵送で行った。2020年俳壇花水木89号よりワコー印刷利用。六本木先生個人編集の一人秀句鑑賞を別冊で用意してくださる。

コロナ禍のため通信句会に変更。2023年俳壇花水木百号発行。



資料、「東小での句会。定刻になり幹事句座準備。彌太郎さんは短冊（投句用紙）の準備。4色の短冊に投句、提出。清記担当者が清記用紙に書き写す。清記用紙を順次廻して各自選句。

披講開始、自句が詠まれたら名乗る。講評・鑑賞・指導は六本木先生。句を貶すのではなく、褒めることに眼目、正午を目安に句会終了。その後饅屋に行き、会食と俳句談義。」

(部長 高橋 定雄)

「あかね展」～力作揃いの展覧会～

あかね展では、毎年秋頃に会員の皆様の日頃の制作活動の成果の一端を吉野町市民プラザ2Fギャラリーにて展覧会を開催している。

油彩・水彩・日本画・彫塑・工芸等、平面作品や立体作品が会場全体を華やかな雰囲気に包んでくれる。嬉しいことにここ何年か、少しずつ新たな仲間が増えてきている。

今後も仲間がどんどん増えていくことを願っている。是非自分なりの表現活動を楽しみながら制作してみてほしい。オンリーワンの素敵な作品になること間違いなし。皆様も気楽に会場に足を運んでいただき、できれば制作活動にも奮って取り組んでいただければと大いに期待している。



まずは、あかね展会場にお越しいただきたい。
多くの人々の来場を心から願っている。

(部長 横永 卓三)

②親睦事業部・同好会

「囲碁研修」～棋力の向上を目指す～

囲碁は高齢になってもあまり力が落ちず長く楽しめるといわれるが、この会でも90代4人が大会で元気に活躍してくれたりする一方、教職員の囲碁人口の減少で平成25（2013）年度頃以降ほとんど新規加入者はなくなり、高齢化等で参加できなくなる人もいて、参加者の減少が大きな課題である。また、新型コロナの感染拡大の影響で令和2年度から3年間はほぼ活動が中止になるという寂しい期間もあった。



平成28年度以降は、月1回の定例会と8月・1月の大会という形で活動をしてきている。『定例会』は、碁盤に向かう姿は真剣であるが、湯を沸かしてお茶やコーヒーを飲みながらゆったりとした雰囲気で対局している。一方、年2回の『大会』は賞品もあり定例会より参加者が多く、真剣勝負の雰囲気の中での対局となる。

一日がかりのリーグ戦方式で1人4～5局打つ。昼食時や対局終了後などは、様々な話題に花を咲かせる楽しみの時間になる。

（部長 林 文夫）

「旅行研修部」～会員の交流親睦を深める～

30年に渡り国内外の名所旧跡を訪ねる研修旅行を通じて、会員相互の交流と親睦を深めてきた。最近を振り返ると、一泊研修部では、平成27年の『清水・三保』、『石和温泉・勝沼』、『懐かしの日光』、『水戸・大洗海岸』、『軽井沢・水上温泉』の旅を実施。



海外研修部では、平成27年の『ベトナム・カンボジア』、『台湾周遊6日間』、『オーストラリア・ケアンズ・シドニー』、『シンガポール・クアラルンプール』、『ベルリン・ミュンヘン・ケルン』の旅を実施。令和2年『スペイン研修』は、コロナ禍で中止。



令和3年度から両事業部を合同し、旅行研修部の活動を始めたが、新型コロナウイルス感染症の影響で、研修旅行は停止。再開は、令和4年、『群馬・四万温泉』の旅。15名で3年ぶりの和気藹々の研修旅行を実施。5年『千葉・北総の旅』は、参加者不足で中止。6年、『三島・伊豆修善寺』の鉄道の旅は、12名で実施。現地の文化・歴史を感じながらの会員相互の交流親睦を深めている。

（部長 井上 政夫）

②親睦事業部・同好会

「フォトさくら」～写真とともに～

平成 20 (2008) 年同好会として発足した本会は、平成 2 (2016) 年正式に事業部の一員となり名称も「フォトさくら」と名付け今に至っている。4名の賛同者から出発した集まりは、18年後の現在 19名の部員を有するまでになった。1年の成果を披露する写真展を開く他に、春と秋の撮影会や撮影技術向上のための研修会（講師は有賀由一先生）を行っている。写真を趣味に持つ人に長寿が多いと何かで読んだことがある。美しい対象物に感動し、撮影機材を組み立てさらに技術を駆使し、理想の作品に1歩でも近づくようにするその努力が気力を保たせるためであろうか。本会も 90歳を超える方たちがカメラを背負って行動を共にしている。これからも和気あいあいと活動していくつもりである。



(部長 中島 博)

「読書と文学散歩の会」～話すこと、歩くこと、旅することは素晴らしい～

9月26日に今年も恒例の文学旅行を無事に終了することができた。島崎藤村の「破壊」、豊田穣の「長良川」、池井戸潤の「ハヤブサ消防団」等のゆかりの地を訪ねて岐阜県を旅してきた。総勢 16名、足、腰は少しおぼつかないかもしれないが、頭は大丈夫。こ



の旅行は外せないと言ってよほどのことがない限り多くの方が参加してくださる。うれしい限りである。コロナ禍の年を除き毎年読書会を8回、文学散歩を3回、文学旅行を1回実施してきた。

読書会では自由にのびのびと話し合い、散歩では、日帰りできる、文学に関連する施設や場所を訪れている。旅行では、文学だけにこだわらず観光やグルメも楽しみながら、毎年仲間との交流を深めている。

先日 100冊の本読破を記念して懇親会を開催した。その席で話された言葉が、はからずもこの会の姿を映し出しているような気がする。「とにかく楽しい、元気である限り参加し続けたい。」この言葉が会員すべての思いではないかと思っている。

(部長 横濱 佳子)

②親睦事業部・同好会

「ゴルフ浜ゆう会（同好会）」～米寿でドラコン～

令和4年11月1日同好会「ゴルフ浜ゆう会」が、東京カントリー倶楽部で産声を上げた。

第1回 令和4年11月1日（火）	東京カントリー倶楽部	参加者 15名
第2回 令和5年3月28日（火）	上総富士ゴルフクラブ	参加者 16名
第3回 令和5年6月2日（金）	大秦野カントリークラブ	荒天の為中止
第4回 令和5年12月16日（水）	東京カントリー倶楽部	参加者 23名
第5回 令和6年3月28日（木）	大厚木カントリークラブ	参加者 16名
第6回 令和6年5月27日（月）	富士カントリークラブ	参加者 21名
第7回 令和6年12月5日（木）	ニュー南総ゴルフ倶楽部	参加者 20名
第8回 令和7年3月28日（金）	大秦野カントリークラブ	参加者 23名



○会則 第3条【目的】1会員相互の健康保持と親睦を図り、退職校長会の発展に努める。

○富士カントリークラブで88歳の方がドラコン（飛距離を競う）を獲得した。表彰式では大きな感動の拍手が鳴り響いた。

（会長 岩井 功）

「浜ゆうミュージックフェア（同好会）」～青春グラフィティ～

令和4年度より同好会としてスタートした。60年代、70年代の青春フォーク、ロック、ポップスの楽曲を演奏、歌唱することにより、昔を懐かしみ、会員相互の親睦を図るのをねらいとした。

会場はライブハウスを活用し、参加者からリクエストを募り、生バンドをバックに歌唱を楽しんでいる。また会員の演奏活動発表の場としても生かされている。クラリネットやオカリナ、篠笛等会員の豊かな音楽性を楽しむこともできた。

今後は、演奏、歌だけでなくミュージックフェアにふさわしい多彩な音楽活動を展開して、多くの会員と広く深い親睦が図れる活動を目指す。



（会長 坂本 昌彦）

(2) 地区活動の取組

本会にとって地区活動の活性化は長年の課題であり、地区幹事の皆様の様々な工夫により、地区集会を開催したり、地区の会員の近況をまとめたりの活動を行ってきた。しかし、令和2年には新型コロナウイルスの蔓延により、集会を開催することが困難な状況も経験した。その制約が解けた令和6年度からは、地区の活動を再開し、活発な活動が行われるようになってきた。

①地区組織の見直しについての記録

ア 令和2年度、幹事会、役員会の中で「地区組織の見直し」の必要性が上がってきたので、検討を重ねてきた。地区組織の見直しの検討内容として1つ目は「地区の統合、分割について」2つ目は「地区幹事の適正な人数とは」3つ目は「地区幹事の活動内容について」であった。

- ⑦ 地区の統合・分割については、地区の会員数が減少または、増加により地区活動の実施が難しいという状況が生じていること。逝去される方の増加で、連絡網の利用や地区幹事の負担が増えているという傾向があること。新たな地区幹事の担い手がいなくて、交代ができない地区もあるということであった。そこで、統合・分割対象となる地区の幹事の意見を聞き、「西区と中区」、「藤沢・茅ヶ崎・平塚以西」について、「西・中」地区・「藤沢以西」地区のように統合し、名称等を改正した。
- ① 旭区については、会員数が100名を越して多いので、幹事を増員することで、当面活動を支援していくことにした。
- ウ 地区集会の開催を奨励することについて、開催した地区の情報を流し、活動の進め方、きっかけつくりなどをする、また、地区の幹事の選出について、積極的に相談に応じる、などの対策を取った。
- ⑤ 令和3年度に規約改正を提案し、総会で承認されて、今日に至っている。

イ 令和5年5月幹事会で、「地区活動の活性化に向けた活動事例集」を地区幹事に配り、活動費の使い方を明確にした。地区集会開催にかかる費用については別途請求できるようになり、活発な活動が行われるようになってきた。その効果もあって、令和6年度は、各地区で活発な活動が行われるようになってきた。

今回、その状況が寄せられてきたので地区の活動を写真で構成し、活性化に結び付けたいと考える。



地区活動の記録



緑地区集会
2018.12.8



横須賀・三浦地区集会
2023.10.25



青葉地区集会
2024.7.29



川崎・東京地区集会
2024.10.26



旭地区集会
2024.10.12



栄・鎌倉合同地区集会
2024.11.11



神奈川地区集会
2024.11.17



戸塚地区集会
2024.11.22



鶴見地区集会
2024.11.29



金沢地区集会
2024.12.5



泉地区集会
2024.12.13



港南地区集会
2024.12.14

(3) 親睦事業部の活動成果紹介

(ぜひ QR コードでホームページをご覧ください。)

<p>フォトさくら 第 15 回 フォトさくら展 2024</p>		<p>あかね展 令和 5 年度 第 36 回 あかね展</p>	
<p>俳句部会 花水木 令和 4 年度 俳壇 花水木 俳句往来 40 100 号</p>		<p>囲碁研修 新春囲碁大会 ～アルバム～ 令和 6 年 1 月 18 日</p>	

本部、地区、事業部連絡先

お問い合わせ等ご利用ください。



ブログ

多くのブログがアップされています。
是非ご覧ください。



資料 歷代役員・幹事等名簿 (平成 27 年度～令和 6 年度)

(1) 役員・参与・総務・会計名簿

(2) 地区幹事名簿

	鶴見	神奈川	西中	南	港南	保土ヶ谷	旭	磯子	金沢	港北	緑	青葉	都筑	戸塚	栄	泉	瀬谷	鎌倉	川崎・東京	横須賀・三浦	北部方面	平塚以西	藤沢以西	相模原・町田	
平成27年度	田口京子	平島義之	関根利和	平井絢子	丸山隆司	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	田中宗二	佐々務
平成28年度	田口京子	平島義之	関根利和	平井絢子	丸山隆司	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	田中宗二	佐々務
平成29年度	田口京子	平島義之	関根利和	平井絢子	南雲成二	太田清実	初鹿野哲	大久保重則	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	田中宗二	椿依都代										
平成30年度	田口京子	平島義之	関根利和	平井絢子	南雲成二	太田清実	初鹿野哲	大久保重則	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	田中宗二	椿依都代										
令和元年度	竹内謡朗・川口司	藤井妙子	平井絢子	南雲成二	太田清実	初鹿野哲	大久保重則	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	佐藤綾子	椿依都代
令和2年度	竹内謡朗・川口司	藤井妙子	平井絢子	南雲成二	太田清実	初鹿野哲	大久保重則	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	佐藤綾子	椿依都代
令和3年度	竹内謡朗・川口司	藤井妙子	平井絢子	南雲成二	初鹿野哲	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	岡本健司	石原敏宏
令和4年度	竹内謡朗・川口司	藤井妙子	平井絢子	南雲成二	初鹿野哲	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	岡本健司	石原敏宏
令和5年度	竹内謡朗・川口司	藤井妙子	平井絢子	南雲成二	初鹿野哲	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	佐藤綾子	石原敏宏
令和6年度	竹内謡朗・川口司	藤井妙子	南雲成二	藤馬直子	初鹿野哲	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	山本明	佐藤綾子	石原敏宏

(3) 事業部幹事名簿 (平成 27 年度～令和 6 年度 会長指名幹事・事業部担当)

	広 報		会長指名幹事	見学会		市内施設巡り	はぜ釣	俳 句	あかね展
平成 27 年度	石川 一秀	福田 三郎	藤崎 直樹	手代 森茂	上原 優子	中島 恵津子	伊 従壽雄	六鹿 清治郎	煙井 展子 櫻 永卓三 佐々木 孝 中澤 信子 宮武 三郎
平成 28 年度	石川 一秀	福田 三郎	藤崎 直樹	手代 森茂	上原 優子	中島 恵津子	伊 従壽雄	佐藤 裕洋	煙井 展子 櫻 永卓三 佐々木 孝 中澤 信子 宮武 三郎
平成 29 年度	石川 一秀	福田 三郎	藤崎 直樹	手代 森茂	上原 優子	野村 啓悟	岩田 恵津子	佐藤 裕洋	飛田 千津子 煙井 展子 櫻 永卓三 佐々木 孝 北原 淳子 宮武 三郎
平成 30 年度	石川 一秀	福田 三郎	藤崎 直樹	手代 森茂	上原 優子	野村 啓悟	岩田 恵津子	佐藤 裕洋	飛田 千津子 煙井 展子 櫻 永卓三 佐々木 孝 北原 淳子 宮武 三郎
令和元年度	広 報		(新) 教育サポートセンター		見学会		市内施設巡り	はぜ釣	俳 句
	岩田 惺	手代 森茂	福田 三郎	藤崎 直樹	上原 優子	中島 恵津子	北伊 小林 高田 村 藤池 克康 慎弘 定綾 久男一之雄子	浜本 美一	相澤 淳子 橋本 敬子 北原 淳子 宮武 三郎
令和 2 年度	岩田 惺	手代 森茂	福田 三郎	藤崎 直樹	上原 優子	野村 啓子	北伊 小林 高田 村 藤池 克康 慎弘 定綾 久男一之雄子	浜本 美一	相澤 淳子 橋本 敬子 北原 淳子 宮武 三郎
令和 3 年度	岩田 惺	手代 森茂	福田 三郎	藤崎 直樹	上原 優子	野瀬 茂	北伊 小林 高田 村 藤池 克康 慎弘 定綾 久男一之雄子	小池 慎一	相澤 淳子 橋本 敬子 北原 淳子 煙井 展子
令和 4 年度	岩田 惺	手代 森茂	福田 三郎	藤崎 直樹	上原 優子	野村 啓子	北村 克久	伊藤 康男 林 弘之 高橋 定雄 田中 綾子	相澤 淳子 橋本 敬子 北原 淳子 煙井 展子
令和 5 年度	岩田 惺	手代 森茂	福田 三郎	藤崎 直樹	上原 優子	野村 啓子	北村 克久	伊藤 康男 大谷 多恵子 高橋 定雄 田中 綾子	相澤 淳子 橋本 敬子 北原 淳子 煙井 展子
令和 6 年度	岩田 惺	手代 森茂	福田 三郎	藤崎 直樹	上原 優子	南雲 成二	北村 克久	伊藤 康男 大谷 多恵子 高橋 定雄 田中 綾子	相澤 淳子 橋本 敬子 北原 淳子 渡邊 千恵子

団研修										一泊研修				海外研修				(文学散歩同好会)																	
平成27年度	藤沼文隆	宮澤昭藏	林文夫	若林健一	福本哲雄	金子鶴松	奥山三郎	大津勝子	齋藤光司	大根田恭子	小関武三郎	平野康子	海老原皓	松下憲三	馬場正徳	井上政夫	海老原皓 安莊真磨男 齋藤光司 松下憲三 中嶋正知 馬場正徳 井上政夫 井上政夫																		
	読書と文学散歩の会										フォトさくら																								
平成28年度	藤沼文隆	宮澤昭藏	林文夫	若林健一	福本哲雄	馬場正徳	金子鶴松	大津勝子	齋藤光司	大根田恭子	小関武三郎	平野康子	海老原皓	松下憲三	井上政夫	井上政夫	岩井功	海老原皓 安莊真磨男 齋藤光司 松下憲三 中嶋正知 馬場正徳 井上政夫 井上政夫	横濱佳子	手代森茂	月田和子	加納多嘉美	渡部博正	大澤真治郎	石川一秀	中島博	平野康子	堀口力	金子鶴松						
平成29年度	藤沼文隆	宮澤昭藏	林文夫	若林健一	福本哲雄	馬場正徳	金子鶴松	大津勝子	齋藤光司	大根田恭子	小関武三郎	平野康子	海老原皓	井上政夫	井上政夫	岩井功	海老原皓 安莊真磨男 齋藤光司 松下憲三 中嶋正知 馬場正徳 井上政夫 井上政夫	横濱佳子	手代森茂	月田和子	加納多嘉美	渡部博正	大澤真治郎	石川一秀	中島博	平野康子	堀口力	金子鶴松							
平成30年度	藤沼文隆	宮澤昭藏	林文夫	若林健一	福本哲雄	馬場正徳	金子鶴松	大津勝子	齋藤光司	大根田恭子	小関武三郎	平野康子	海老原皓	井上政夫	井上政夫	岩井功	海老原皓 安莊真磨男 齋藤光司 松下憲三 中嶋正知 馬場正徳 井上政夫 井上政夫	横濱佳子	手代森茂	月田和子	加納多嘉美	渡部博正	大澤真治郎	石川一秀	中島博	平野康子	堀口力	岡部サチ子							
令和元年度	林文夫	藤沼文隆	宮澤昭藏	若林健一	福本哲雄	馬場正徳	金子鶴松	大津勝子	齋藤光司	大根田恭子	小関武三郎	平野康子	海老原皓	井上政夫	井上政夫	大澤真治郎	海老原皓 安莊真磨男 齋藤光司 松下憲三 中嶋正知 馬場正徳 井上政夫 井上政夫	横濱佳子	手代森茂	月田和子	加納多嘉美	渡部博正	大澤真治郎	石川一秀	中島博	金子鶴松	堀口力	岡部サチ子							
令和2年度	林文夫	藤沼文隆	宮澤昭藏	若林健一	福本哲雄	馬場正徳	金子鶴松	大津勝子	齋藤光司	大根田恭子	小関武三郎	平野康子	海老原皓	井上政夫	井上政夫	大澤真治郎	井上政夫 海老原皓 安莊真磨男 齋藤光司 松下憲三 中嶋正知 馬場正徳 井上政夫 井上政夫	横濱佳子	手代森茂	月田和子	加納多嘉美	渡部博正	岡本健司	石川一秀	中島博	金子鶴松	堀口力	岡部サチ子							
団研修										旅行研修				読書と文学散歩の会				フォトさくら																	
令和3年度	林文夫	藤沼文隆	宮澤昭藏	若林健一	福本哲雄	井上政夫	馬場正徳	中嶋正知	岡本健司	岡本健司	平野康子	海老原皓	大澤真治郎	大澤真治郎	大澤真治郎	大澤真治郎	海老原皓 上原優子 工藤京子 加納多嘉美	横濱佳子	手代森茂	月田和子	工藤京子	渡部博正顧問	中島博	石川一秀	大高美代子	金子鶴松	堀口力	岡部サチ子							
令和4年度	林文夫	若林健一	福本哲雄	霜島容一	井上政夫	馬場正徳	中嶋正知	岡本健司	岡本健司	平野康子	海老原皓	大澤真治郎	大澤真治郎	大澤真治郎	大澤真治郎	大澤真治郎	海老原皓 上原優子 工藤京子 加納多嘉美	横濱佳子	手代森茂	月田和子	工藤京子	渡部博正顧問	中島博	石川一秀	大高美代子	平野康子	堀口力	芝フク代	(新)浜ゆうゴルフ(同好会)	(新)浜ゆうミュージックフェア(同好会)					
令和5年度	林文夫	若林健一	福本哲雄	霜島容一	井上政夫	馬場正徳	中嶋正知	岡本健司	岡本健司	平野康子	海老原皓	大澤真治郎	大澤真治郎	大澤真治郎	大澤真治郎	大澤真治郎	海老原皓 上原優子 横濱佳子 工藤京子 野村啓子 渡部博正顧問	横濱佳子	手代森茂	月田和子	工藤京子	野村啓子	中島博	石川一秀	大高美代子	平野康子	堀口力	芝フク代	岩井功	内山実	持丸隆一	馬場正徳	大澤真治郎	坂本昌彦	佐藤隆章
令和6年度	林文夫	若林健一	福本哲雄	霜島容一	井上政夫	馬場正徳	中嶋正知	岡本健司	岡本健司	平野康子	海老原皓	大澤真治郎	大澤真治郎	大澤真治郎	大澤真治郎	大澤真治郎	海老原皓 上原優子 横濱佳子 工藤京子 野村啓子 渡部博正顧問	横濱佳子	手代森茂	月田和子	工藤京子	野村啓子	中島博	石川一秀	大高美代子	平野康子	堀口力	芝フク代	岩井功	内山実	持丸隆一	馬場正徳	大澤真治郎	坂本昌彦	佐藤隆章

あとがきにかえて

結成 60 周年の記念誌を上梓することができました。編集にあたり 40 周年記念誌、50 周年記念誌を参考にしました。執筆には各事業部長、各地区幹事の皆様にご協力をいただきました。ありがとうございました。

1 編集の意図と骨子

○役員各位が記念誌発行への期待や内容について意見交換。50 周年記念誌をもとに、60 周年に至るまでの 10 年間を記録に残す、主な活動をトピックにしてまとめるなど、記念誌の意図と骨子を決定。

○記念誌の内容、編集方針について、記念誌部会委員で骨子を決め、役員会で了承。

【A4 版カラー印刷で、写真を多く載せる、本会 10 年の歩み・取組を記述する、本会のホームページと関連付ける】などの計画のもとで役割の分担をし、編集。

○記念誌作成は記念誌部会委員が中心となり、編集、執筆の依頼等の作業実施。

2 編集の主な経過

- (1) 令和 6 年 2 月に骨子を話し合い、全体計画を作成して、役員会で了承。
- (2) 5 月総会で「60 周年記念行事と記念誌作成」を報告、了承。
- (3) 8 月に記念誌部会で、デザイン案に従って課題を確認、原案の下で執筆依頼作業に入る。9 月から 10 月に執筆を依頼。
- (4) 11 月の記念誌部会で、執筆原稿を持ち寄り検討、印刷所を決定。
- (5) 令和 7 年 3 月に印刷所に入稿校正。
- (6) 5 月に記念誌を完成。

調整部会

大澤眞治郎
小松規久夫
嶋田 優
神倉美智子
角田 和暁



会員相互、他団体との連携、会の継続・発展に寄与する会にしたい。

祝賀部会

馬場 正徳
山元 泰弘
大橋 恵子
浜本 美一



会場交渉、記念ファイル、アトラクション担当で、楽しく盛り上げたい。

会計部会

関谷 朋子
深山喜美子
高橋 宏明
齋藤 由香



積立予算の適正な使途、当日会費の間違いない扱いに配慮したい。

記念誌部会

吉野 誠
伊藤 康男
佐藤 隆章
須貝 広幸
高橋 実
加納多嘉美



A4 サイズ、カラーで、コンパクトな内容の記念誌を作成。8 回の部会で入稿。寄稿に感謝したい。



「昼下がりの散歩」 有賀由一（フォトさくら）

**横浜市退職小学校長会
結成 60 周年記念誌**

発 行 日 令和 7 年 3 月 31 日
発 行 者 横浜市退職小学校長会
会長 加納多嘉美
ホームページ <https://yokohama-tsk.jp/>
編 集 記念誌部会
印 刷 コジマ印刷株式会社
横浜市鶴見区上末吉 4-8-11
電 話 045-583-2235